

報道関係各位

NPO 法人富士山測候所を活用する会

2011年度夏季観測・研究の計画概要

富士山測候所を借り受けて夏期に実施している研究観測は、今年で5回目を迎える。富士山測候所の開所期間は7月11日から9月2日まで過去最長となる54日間、延べ350名が参加して研究観測を実施する予定である。その概要は以下のとおりである。

観測・研究の規模と内容

今年の研究観測は、公募で申請・審査を経て選定された16グループが実施。参加者はこれまで毎年右肩上がりで増えてきたが、3月に発生した東日本大震災の影響などもあり、参加規模は昨年を大幅に下回る延べ330人程度(昨年比約30%減)となる見込みである。研究内容は、大気化学、放射線科学、高所医学など従来からの継続案件のほかに、「ヤマネの研究」などの新たな研究テーマが加わった。通年観測に向けた太陽光パネルも本格的な現地調査に入る予定である。

表1に今年度のプロジェクトの一覧を示す。

表1 2011年度 プロジェクト一覧

NO	研究テーマ	代表者
1	富士山頂における無人の継続的二酸化炭素濃度測定	向井人史、須永温子 (国立環境研究所)
2	富士山頂におけるエアロゾル粒子と雲凝結核の測定	三浦和彦 (東京理科大学)
3	富士山を観測タワーとした大気中水銀の長距離輸送に係わる計測・動態・制御に関する研究	永淵修 (滋賀県立大学)
4	同位体を用いた炭素系粒子の発生源分別	兼保直樹 (産業技術総合研究所)
5	富士山頂における身体動揺の簡易測定の有用性について	井出里香 (都立大塚病院)
6	通年オキシダントデータの無線LANを用いた国際ネットワーク配信に関する研究 (*)新技術振興渡辺記念会受託研究	土器屋由紀子
7	宇宙線被ばく線量評価の信頼性向上を目的とした富士山頂での放射線測定	保田浩志 (放射線医学総合研究所)
8	富士山頂における有機エアロゾルの組成に関する研究	河村公隆 (北海道大学)
9	富士山頂での夏季のオゾン・一酸化炭素の特性	加藤俊吾 (首都大学東京)
10	富士山の永久凍土研究—水文学的および地形学的なアプローチ—	池田敦 (筑波大学)
11	富士山体を利用した自由対流圏高度におけるエアロゾル—雲—降水相互用の観測	大河内博 (早稲田大学)
12	高所滞在中の尿タンパク量とアンギオテンシン遺伝子型の関連	上小牧憲寛 (国際医療福祉大学)
13	富士山頂短期滞在時の安静および運動時の脳血流心行動態に関する研究	浅野勝己 (筑波大学名誉教授)
14	富士山頂における睡眠時の低酸素症に対する口腔内装置の効果	野口いづみ (鶴見大学)
15	富士山頂のヤマネ	杉山昌典 (筑波大学)
16	3次元雨量計の強風環境下における計測特性試験	松田 益義 (MTS雪氷研)

富士山測候所科学講座

例年、富士山測候所において富士山学校科学講座を開講していたが、天候状態や登山者の個人差などにより安全実施に課題があった。今年はこの反省を踏まえ、前夜に 8 合目以上の山小屋に泊まった人に限定する、基本的には引率者が登下山に責任を持つ団体とするなどの条件つきで、1 回～2 回開催する予定である。このほかに、地元自治体などとタイアップして下界での富士山学校も計画している。

インフラ設備

活動拠点となる富士山測候所及び園周辺においては、電線路等のインフラ設備の地震による損傷や落石などの可能性も懸念されている。開所前には点検を実施するほか、山頂の危険区域には注意を促す標識を設置するなどして、できる限り安全に配慮し事故防止につとめる。

支援体制

現場の体制は、山頂に研究グループの山頂での研究活動などを支援する山頂班、麓の御殿場市内に研究グループの荷上げ・登下山などを支援する御殿場基地班をそれぞれ置き、山頂管理運営委員会及び東京の事務局と緊密な連携をとり万全を期す。安全対策としては、初参加グループに対しては説明会を実施したほか、参加者全員に「安全マニュアル」を配付し徹底をはかる。

資金問題

新技術振興渡辺記念会からの調査研究の受託事業、三井物産環境基金による助成事業、カーボンオフセット年賀寄附金による配分助成事業、その他公募で採択された自主研究事業などにより資金を確保する。しかしながら、活動資金については、5 年間にわたる JAMSTEC との共同研究の終了、助成額の縮小、受託業務の減少などにより、これまでで最も厳しい環境下にあるといえる。このため、御殿場基地班のオペレーション業務については山頂での経験豊富な研究者の自発的なボランティア活動で対応するなどし、経費節減をはかる予定である。

報道・その他

夏季観測期間中の報道取材については、表 2 に示す取材に当たっての注意事項を守ること。夏季観測期間中はホームページをフルに活用し、随時山頂の活動状況等の最新情報を発信する。なお、今夏の観測・研究の結果については、例年どおり、2012 年 1 月(予定)に第 5 回成果発表会を開催し、過去 5 年間の研究成果を総括する予定である。

表 2. 研究観測期間中の山頂での取材に当たっての注意事項

1. 庁舎の位置づけ

- 気象庁から旧富士山測候所(富士山特別地域気象観測所)の一部の貸付を受けて使用
- 自然公園法による国立公園特別保護地区内に存在

2. 早期の取材準備と連絡

- 遅くとも 1 週間前までに事務局に取材申込書を提出
- 取材内容・方法を早めに相談

3. 取材範囲と対応者

- NPO が貸付を受けている範囲内での取材
- 可能な限り、取材目的に即した研究者または事務局の関係者を予め手配
- 取材内容等で疑問・不明なところは事務局にお問い合わせ

4. 山頂活動での安全配慮

- 高所で危険が伴うことを考慮し、研究者のために登下山を含めた安全マニュアル(行動指針)を準備しているので参照